

自然の



イタチ

森ではシラキ、ケヤキがまず色づき、やがてコナラの黄、ドウダンツツジ、イロハモミジの赤が鮮やかになる。森の小径も明るくなり、近づく足音にリスがパッとナラの幹にとびつく。そのまま動かない。リスの木化けである。冬が近づくとリスの耳の毛が、ピンととがった冬毛になる。

この頃、イタチは水辺にうずくまり獲物をねらう。水泳の得意な彼はときに、自分の身体より大きな鯉を岸にはね上げ、血だけを吸う。残がいは、カラスやカケスのごちそうとなる。富士の根雪も白くさえ、雪煙を上げる頃、シジュウカラ、エナガ、コガラ、ヤマガラ、ヒガラが群をなして森を移動する。この頃、遠くシベリア、中国東北部から渡って来たカシラダカの群が、日だまりに集まり草の実をついばむ。そんな日だまりに、昼寝をしていたノウサギが近づく足音に、一目散に黒木の森に逃げ込む。中旬には猟期に入り、森のまわりでは、ときおり銃声がこだまする。

ぼくの作品 わたしの作品



9月30日秋晴れのもと、運動会でやった、「玉入れ」の様子を書いた、岩松幼稚園のお友だちの作品を紹介します。



せまじゅんじ



がんばってたくさん入れたから、大きくかいた。かごがおもくなってたれてるよ。



わたなべとしみ



たまが上からおちてくるからこわかったけど、勝ったから、もうこわくなくなったよ。

薬草のおはなし②①

薬草名 ナンテン
なんてんじつ
生薬名 南天実
薬効 せき止め



お祝いごとで赤飯を他家へ配るとき、よく赤飯の上にナンテンの葉をあしらう風習があるが、これは「ナンテンの葉が毒を消して、食中毒の心配はありません」という意味をあらわしている。

ナンテンの葉にはナンジニンという成分が含まれていて、これが熱い赤飯の上へのせられると解毒作用のあるチアン水素が微量発生して赤飯の腐敗を防ぐ。

薬用部分の果実は12月ごろ採取して日干しにする。乾燥した実を1日に5～10g煎服すると、せき止めに効果がある。